

「対等な者同士が愛し合うことや、目上の者が愛されることは、よくあることです。しかし、君主たちの王であり、神の御子であるイエス・キリストが、人間をこのように愛されるとは、何と驚くべきことでしょうか。しかも、その愛の対象である人間が、聖書の至るところで描かれるように、卑しく、取るに足りず、汚れ、愛される価値もなく、顧みるに値しない存在であることを考えれば、なおさらです。キリストは神、栄光の王と呼ばれています。それに対して、キリストが愛される人々は、背く者、罪人、敵、ちりや灰、ノミ、虫けら、影、霧、卑しい者、汚れた者、罪深い者、不潔な者、神を敬わない者、愚か者、狂った者と呼ばれています。このことを考えるなら、驚かずにいられるでしょうか。心を動かされずにいられるでしょうか。『あなたは、このような者にまで目を留めてくださるのですか』と言わずにいられるでしょうか。主が私たちに心に向け、私たちを愛してくださるとは、いったいどれほど驚くべきことでしょうか。…キリストの愛は、愛される対象の中に美しさを見いだすことを必要としません。その愛は、相手の何かに依存することなく働きます。主イエスは、ご自身の意志によってその者に心に向け、愛されるのです。』(ジョン・バニヤン)

○主が足を洗われたのなら：三つのキーワード

1. _____(12-15)

※ヨハネ1:38「イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て、言われた。「あなたがたは何を求めているのですか。」彼らは言った。「ラビ(訳して言えば、先生)。今どこにお泊まりですか。」」

※ヨハネ6:68-69「すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」

※ピリピ2:3-5「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」

2. _____(16-17)

「この教えは、キリスト者であると名乗るすべての人が、いつも心に留めておく必要があります。教理や務めについて、「それは知っています、分かっています」と言いながら、不信仰や不従順のうちにとどまっている人を見かけることは、決して珍しくありません。まるで、知識が心や人格、日々の生活に何の実も結んでいなくても、知っているというだけで、自分には何か誇れるものがあり、罪や欠点も埋め合わせられるかのようです。けれども、真実はその真逆です。自分がどうあるべきか、何を信じ、何を行うべきかを知りながら、その知識によって生き方が何も変わらないなら、それは神の御前での罪責を、かえって重くすることになります。…要するに、実践こそ、信仰生活そのもののなのです。「こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です。」(ヤコブ4:17)。(JCライル)

3. _____(18-20)

※マタイ26:22「すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう」とかわるがわるイエスに言った。」

※イザヤ46:9-10「遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。」